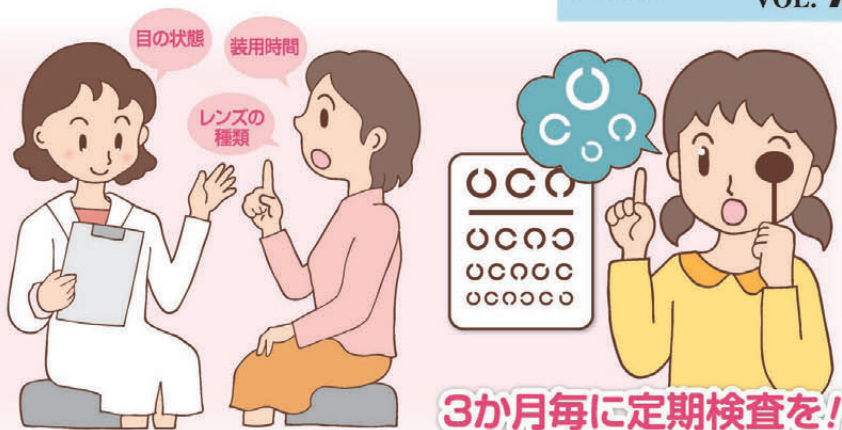


4 コンタクトレンズによる目の障害 どうやって予防すればいいの？

自分に合ったレンズを選択

コンタクトレンズを最初に購入するときは、眼科にてどのようにコンタクトレンズを使用したいのかを伝えて、自分のライフスタイルに合ったコンタクトレンズを選択してもらうことが大事です。そして、3か月毎に定期検査を受け、その間に不都合があればその内容を詳しく伝えます。



レンズは常に清潔な状態に!

コンタクトレンズ装脱時にはしっかり手洗いをすること、手洗い後、レンズをさわる指では他のものをさわらないこと、消毒が必要なコンタクトレンズでは、用法をしっかりと守ること、レンズケースは毎回きれいに水洗い乾燥させること、そして3ヶ月毎に新しいものと交換することを遵守しましょう。



カラーコンタクトの危険性

最近、高校生、中学生を中心としてカラーコンタクトレンズを使用している人が増えています。ネットや大型ディスカウントショップで購入できるカラーコンタクトレンズの殆どは、素材的にも酸素透過性が低く、付けられている色素が露出していたり、サイズがとて大きかったりと、機械的的刺激、酸素不足

による目の障害の危険性が通常のコンタクトレンズよりも格段に高いと考えられます。また、そのようなカラーコンタクトレンズ使用者は十分な装用指導やケア指導を受けていないことが多く、角膜上皮障害から角膜感染症へと進展する可能性が高いことが危惧されます。

角膜感染症



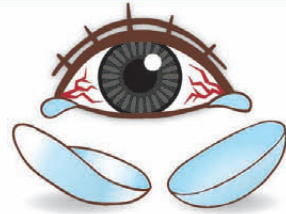
コンタクト レンズによる 目の障害



コンタクトレンズにはハードコンタクトレンズとソフトコンタクトレンズがあります。いずれも目の中に入れるわけですから、目にとっては異物となります。また、目の状態やレンズの状態も、時間が経つと変化することがあり、それが思いもよらない

障害を引き起こすことにもなりかねません。コンタクトレンズによる目の障害やその原因はどんなものがあるのでしょうか。今回のBe Wellでは、このコンタクトレンズによる目の障害について説明します。

1 コンタクトレンズによる目の障害 原因にはどんなものがあるの？

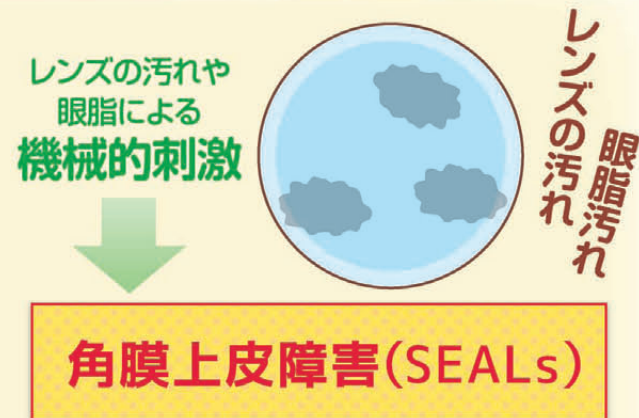


コンタクトレンズにはハードコンタクトレンズとソフトコンタクトレンズがありますが、いずれも目の中に入れるわけですから、目にとっては異物になります。各メーカーはコンタクトレンズの異物としての側面を材質やデザインを工夫することによって最小限に抑えています。眼科医は角膜形状、眼瞼形状、涙液の

状態などに配慮して、出来るだけ患者さんの目に合うようにコンタクトレンズを処方しています。しかし、目の状態やレンズの状態も時間が経つと変化することがあり、そうするとコンタクトレンズが異物としての側面を露呈してきます。

機械的刺激による目の障害

ドライアイになるとコンタクトレンズが角膜や結膜に機械的刺激を及ぼしますし、アレルギー性結膜炎になるとレンズの汚れや眼脂が機械的刺激になり、それがまたアレルギーを強くするという悪循環に陥ります。機械的刺激はハードコンタクトレンズの場合、角膜周辺部の3時・9時の位置に角膜上皮障害を引き起こします。ソフトコンタクトレンズの場合は角膜下方中央部からやや下方にスマイルマーク点状表層角膜症や角膜上方の輪部近くにSEALs(superior epithelial arcuate lesion)と呼ばれる角膜上皮障害が認められることがあります。



酸素不足による目の障害

角膜には他の組織と異なり血管がありません。角膜を養う酸素は大气から涙液を通して供給されねばなりません。それを遮断する形でコンタクトレンズは存在するわけですから、ハードコンタクトレンズもソフトコンタクトレンズもそれなりに酸素透過性の機能は付与されていますが、装着時間が長すぎたり睡眠中も装着したままだと酸素不足による眼障害が生じてきます。強度な酸素不足は角膜びらん、慢性的な酸素不足は輪部からの血管侵入や角膜内皮細胞の減少を引き起こします。



細菌感染による目の障害

角膜上皮細胞は密接にタイトジャンクションと呼ばれる機能で密着しており病原菌の侵入を防いでいます。しかし、角膜上皮障害が生じていると、その機能は低下し、容易に病原菌が角膜内に侵入して感染が生じてしまいます。細菌、真菌、アカントアメーバなどに感染すると治っても角膜が混濁し、視力低下の原因となります。



症状が進行すると失明にも繋がりがねません

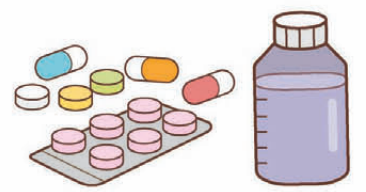
2 コンタクトレンズによる目の障害 どんな症状? 対処法は?



コンタクトレンズによる目の障害が生じた場合、まずは目の痛み、結膜充血、視力低下などが起こります。このような症状が起こった場合、すぐにコンタクトレンズをはずすことが大切です。そして、すぐに眼科を受診しましょう。こういうときに備えて、ある程度見える眼鏡を持っておくのは大切なことです。



3 コンタクトレンズによる目の障害 どのように治療するの?



輪部からの血管侵入や角膜内皮細胞の減少が認められた場合は、より酸素透過性の高いコンタクトレンズに変更させ装着時間も必要最低限にするように指導します。角膜上皮障害があっても感染が疑われなければ、角膜保護剤と念のため抗生物質も併用して点眼で治療します。感染が疑われた場合は、起因菌を確認して抗生物質による徹底的な治療(点眼、内服、静注など)を行います。真菌、アカントアメーバによる感染の場合は専門家のいる大学病院などで診てもらう必要があるため、かかりつけ医と相談して指示に従いましょう。

症状	輪部からの血管侵入 角膜内皮細胞の減少	感染の疑いが無い 角膜上皮障害	感染の疑いがある 角膜上皮障害	真菌・アカントアメーバ による角膜上皮障害
治療方法	<p>酸素透過性の高いコンタクトレンズに変更装着時間を必要最低限に</p>	<p>角膜保護剤、抗生物質を併用した点眼治療</p>	<p>抗生物質による徹底的な治療(点眼・内服・静注)</p>	<p>かかりつけ医と相談して大学病院などへ</p>